

引き続き製材棟、土場の整備進める

福島県双葉郡浪江町が一昨年から整備を進めていた福島高度集材製造センター（F L A M Ⅱ エフラム）が、計画どおり3月末に竣工した。4月から、運営会社のウッドコア（双葉郡、朝田宗弘社長）がJ A S 取得に向けて作業している。本格稼働は、隣接する製材工場や丸太を保管する土場などすべてが整った段階で、早ければ今秋、遅くとも今年度内には丸太からの一貫生産がスタートする。

FLAMは国内最大級の中・大断面集成材の量産工場になる計画で、3～5年後をめどに、年間原木消費量5万立方メートル、同集成材生産量1万5000立方メートルを目指している。

3月末に竣工した集成材工場は、浪江町が国の福島再生加速化交付金を活用し、55億円の予算を組んで整備した。実際の製造販売事業は、町内で製材業を営む朝田木材産業(同、朝田英洋社長)と、中・大断面集成材事業を手掛ける藤寿産業(福島県郡山市、蔭山寿一社長)が共同で設立した。集成材製造には国

たウッドコアが、委託を受けて行う。

工場内は、中・大型の木造物件の要望に 대응することを意識した、様々な工夫が施された。集成材製造には国

3月末に竣工した集成材棟（右下は外観）



内で初めて、カレソーで、様々な長さを受注（デンマーク）の高周波プレスを導入。異なる長さの製品を一度にプレスできる点の特徴

プレカストはもとより耐火被覆や鋼材とのハイブリッド化、ユニット組み立てにも対応する。加工機周辺の空間は特に広く取り、納入まで大量の部材をストックすることも可能にした。

これらの点に着目

の集材材で作られ、県産材活用のモデルにもなっている。

集材材棟を追って整備中の製材棟も、20×68m、1360平方メートルと広い建屋。導入するチップパーカンター（共和キカイ）は最大45センチまで挽くことがで

し、「木造の公共建築物を計画しているが、いつから製品を使うのか」といった問い合わせが稼働前から寄せられている。集成材棟とともに完成した23×60坪の倉庫と2階建ての事務所も福島県産材各2基で、十分な乾燥能力を持つ。ウッドコアでは、8～9月ごろのJAS取得を目指すとともに、製材棟や土場などの整備が順調に進めば、早ければ今秋にも丸太からの一貫生産を始めたいという。



お問い合わせ下さい

TSC 株式会社 ティ・エス・シー

〒292-0838 千葉県木更津市潮浜2-1-53
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349
ホームページ <http://www.syusei-tsc.com>